



卒業おめでとう

第7期生

卒業生に与う

ヨゼフナドウ

皆さんにまもなく洛星を卒業し、大学へ進学しますが、皆さんのこれからの生活は洛星における今迄の六年間の生活とは非常に違ったものになることと思います。皆さんが入学する大学に於ては、洛星にあるような補導部や担任の先生が定められてるような組織はおそろくないでしょう。だから、たとえ皆さんが授業に遅れたり、勉強を怠けたり、夜遅くまで映画館に行ったり喫茶店で雄談にふけていたとしても誰もそれを問題にしないと思います。また皆さんの礼

儀作法・言葉使い・服装などについても誰かに注意を受けるということもありません。これからは監督され注意されることは、もつとなくなくなり、そのため皆さんは解放感に酔って、これからは勝手な生活ができると考えている人もあります。

これからの生活が今よりも、と自由になることは事実です。しかし皆さん、この新しく得た自由は濫用しないように気を付けてほしいと思います。また、洛星(らくせい)の身につけた道徳心や良い習慣を失わないように注意して下さい。登りには時間がかかるが降りて来る時間は確かしかからないのはスキーで滑走を楽しむ場合に経験することですが、それは、人間の成長についてもいえることであります。長い時間をかけて努力してつくりあげた良いものでも気を付けないと案外早く失なわれてしまつてことがあります。自分自身の成長は、ミサイルやロケットにもたとえられます。幾十、幾百トンもあるミサイルやロケットを地球の引力にうちかって数十キロの速力で走らすためには、なんと莫大なエネルギーを必要とすることでしょうか、しかし、それが地球へ戻るためにはエネルギーを全然必要としません。人間もそれと同じことで、勝手なことをし、唯、欲望にしたがって生活するには努力はいりません。しかしより良いすぐれた人格を創りあげるため、或ひはすぐれた研究やその他の立派な事業を行なうためには、大きな精神的エネルギーを出さなければなりません。人間が努力を止めるならば、ミサイルのように落ちるばかりで、云わば、わがままな生活、本能的な生活に落ちこむようになるでしょう。

或る有名な俳優が次のようなことを語ったことがあります。「私は有名な俳優になることができて使いきれないほどの財産を得ましたが、もはや人生は退屈なものとなっていました。そして不規則な生活の結果、まづ体が壊れられつつあります。」この人が云う通り、不規則な生活はまづ体を害しますが、それに加えて精神的にも病気を起してしまふものです。不規則な生活に陥り、安易な生活をお好みによれば、精神はやがて死を招いてしまいます。これから通かなる道を歩いて行く、皆さんの行く手には幾つもの人生の陥穽があることを知っておかなければなりません。

私が皆さんに云いたいことは、此の學校で得た道徳心、礼儀作法、言葉使い等の良い習慣は決して失なわないでほしいと思ひます。

現実の日本には戦後青少年達に一種の流行のように広がった類型的な行動は徐々に姿を消しつつありますが、また多少は「アパレル」無規律な状態が残っている面も見受けられます。皆さんは卒業後多かれ少なかれ、社会的或いは対人関係において無規律な面に接することがあるかと思えます。しかしそのような場合、たとえ他の人と異った観念、行動であらうと、また人からそれをいかに批判されようと、他に染まる必要はありません。皆さんがこの学校で得た徳は人間の持つ本然の姿であり、それは決して時代遅れのものでないということに自覚をもって行動していただきたい。そしてみなさんの毎日の行動が、このようなバックボーンにもついた自信のもてる誇りたかいものであってほしいと思います。自分自身を知的・肉体的・精神的に向上させるためには、ためめめ努力が必要です。キリストが十字架を背負われ、ゴルゴタへの道を歩まれたとき、キリストは「人類の救済」という大きな目的のために幾度倒れても立ち上って歩むことを私達に示されました。卒業して更に一段の飛躍をされようとしている皆さんもいくたび叩かれても、砕かれてもまた立上って、投げやりにしない心、絶望しない心、あくまで自分自身に對しと誠実である心を持ち、胸を張って前進されることを希望し、皆さんの卒業を祝しその前途の幸いを祈ります。

高ⅢA担任

緒方登麿

今年ではくの前上には四冊目の卒業記念アルバムが積まれることになる。そのそれをひろけてみても、その時その時の想い出があらやかによみがえってくる。きつとこの四冊目のアルバムはこのアルバムにもましてなつかしい想い出のページをのこしてくれることなう。

あつと言つ間に過ぎてしまつたこの一年、はじめはお互いにオスオスと、終りになるにつれてワイワイガヤガヤと、しかしとにかく楽しかった、面白かった。まさしく、高校三年生（除二番）を地で行つたよな一年だつた。

校であるとか大学受験の名門校であるとかいふ世評を身で以て見事に粉砕してくれたことを心から誇りに思つてゐる。この学校でこれ以上の誇りは他にはないなう。

一つの輪は後数日で完成されようとしてゐる。しかしこれがすべての終結完成であつてはならない。新しい可能性を目指して、新しい輪を完成させるために、君たちは更に前進しなければならぬのだ。

大学に入學した時がその人の人生のクライマックスであるといふよなことが、えてして名門校と言われる学校を出た人の間ではいふほどは確信したい。若さや夢をいつまでも持ち続け、きびしい人生に対して、君たちの全身をもつてもになうか行つてもいい。若年寄りになるな。悟り切んな。それよりも、更に苦しめ、そして悩め。

後数週間後にせまった大学入試については今更何と言つてはならない。君たちはできただけのことをした。そして何も及ばずながらもできるだけのことをしたつもりだ。それでも充分ではないか。この学園ですくした日々がいつまでも君たちの心に美しい光を放ち続けることを感じよう。

高ⅢB担任

森住弘

卒業生の皆さん、御卒業おめでとつ。さあ、君達の目の前は洋々たる前途が開けている。その道を進んで行くには、決して楽などきばかりではないと思います。苦しいとき、辛いときがあったら落星の生活を思い出して下さい。きっと諸君に何かを与えるものがあるでしょう。楽しいことがあったときにも落星を思い出して下さい。

なつて、これから大学へ、社会へ果立つてゆく君達を見送るながら——これだけでよかったかな、他にしてやることはなかったかな、アという不安の気持ち一ぱいで、華やかな結婚式を前にして、花嫁を送る父親の気持（まだそんな年令には達しておりませんが）とはこのようなのかと思ひます。

卒業式は終りの式でなく、出発の式である。さあ、落星でたくわ

高ⅢC担任

木村 觀次

卒業おめでと。……と、こう口では言っても、どうも実感として湧いて来ません。実感としてとらえようと、お互いに、余りにせわしすぎるようです。でも、もう君達の姿がこの学校に見えなくなるという現実、のがれられぬものとなりました。今となって、説教臭い話はやめましょう。

君達と一緒に、胸をあくくませて本校に入学した僕も、君達と教室で接したのは僅か二年間でした。しかし、この二年間の君達との日々は、本当に僕の生活のすべてでした。その点、僕は少しも悔いのある所がありません。それだけに、

摩周湖の霧がもの見事に晴れわたり小躍りして走りまわった日。カンジラス、とやら申す怪物も踏まれた日。おはら参り、においにかけて、知恩院の鐘の下で元氣よく元旦を迎えた日。暖かい春の日を浴び乍らソフトボールに興じた日。議論に議論を重ねて劇を作りに上げて行った日。心をこめて話した言葉が、単なる音となって空ろに響きかえて来た日。……

去年の春「最髙学年こそが、学園生活をリードするのだ。」と君達は力強く誓ひあいました。そして君達は出来るかぎりの努力を出してきました。体育祭、文化祭にみえた、全学年の心の結晶をもみ出したします。

えながら、ささ苦し事もあったでしょうが、高校生として本当に意義ある生活を送ったものだけに、立派に進学して行くのだ、という事実を確立させるということ、この時代にも最も望まれること、一つであるはず。出来なない学年、といわれながらも、立派に勉強しておして果立ってゆく君達に、僕は心からの祝福を送りたいと思います。大学は、教えられるにゆく所ではありません。自らの道を、自らの力で作りあげる場であります。どうか、十分な力を出きって、のびのび成長して下さい。君達の幸せを心からお祈りいたします。

卒業に際して

「洛星はいい所」

芦田 穀

現在が過去になり、未来が新しく現在という地位を獲得する一連の作用が回となく繰り返されて時が経過する。かつて現実のものであった入学式という入口をくぐってからも六年、今や卒業という遙か彼方の幻であったはずの出口が目前にポツカリと大きな口を開けて、私の通るのを待ち受けている。六年間の喜怒哀楽のいくつかが思い出となって心に浮かん

「いゝとスたーた」と

おさわがせしました

「くたばれ秀才」
萬 謙 吾
さようなら。
短かくも又長い六年間ではあり
ました。思い出はすべてを美しく
包んでしまします。洛星らしいほ
くの思い出といえは、中学時代の
宗教研究の日々でしょうか。あの
冷え冷えとした神々しいムードに
靈的陶醉を感じ、清らかな聖歌を
目に涙をためて歌っていた幼ない
ばくでありました。
洛星としてはもっと宗教教育を
徹底し、カトリックの学校として
の特色を強へたすべきでしょう。
洛星が単なる受験の名門校に墮
てしまわないためにも、洛星の存
在意義はもっと高い所にあるはず
である。

大門 夏

「ス」
我之
君達の成

な問題だ
いののは、
いこの面を
るものを
継ぎ、実
なく、こ
いが、我
何かに
は知らな
ていつの
△しよ
して自意
しい気持
いやにな
た。仮装
に満点
の数年間
精神的低
深い自己
大さ
自由であ
す出てい
洛星が取
意味で我
は試練の上
す。頑張
園より

念特集と
の局員の
ただけで発
ないもの
新聞局へ
発行しま
新聞を発